

森林経営管理制度の仕組み



- 適切な経営管理を実施していない森林について、
- ① 市町村が森林所有者に、所有する森林を今後どのように経営管理したいか**意向を確認**します。
 - ② 所有者が市町村に経営管理を委託したいと回答頂いたときは、**市町村と協議の上**、必要に応じて**経営管理権の委託手続き**を行います。

- 市町村に森林の経営管理を委託した場合
- ③ 林業経営に適した森林は、市町村が林業経営者に経営管理を再委託し、
 - ④ 林業経営に適さない森林は、市町村が自ら森林の管理を行います。

航空レーザ測量とは

■本計画の策定にあたって活用した最新技術

南丹市全域の森林において、最先端のリモートセンシング技術を用いた森林計測・資源解析を行い、森林の現状を正確に把握しました。

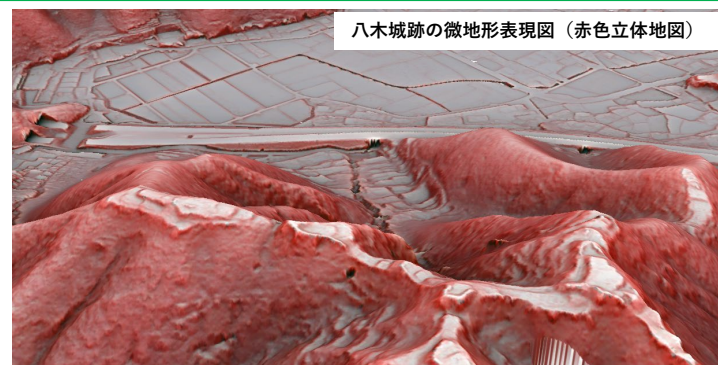
空から森林を測る

航空レーザ測量とは、飛行機からレーザ光を発射し、地面や樹木から反射する時間を計測する測量方法です。この技術により、広範囲の森林を短期間に一定の精度で調査できるようになりました。

航空レーザ測量のデータを解析することで、様々な森林情報を得られます。特に、森林経営管理制度の主な対象であるスギ・ヒノキは、樹木一本一本の情報を得ることができます。



詳細な地形を把握する



航空レーザ測量から作成した微地形表現図（赤色立体地図）は、樹木に隠された地形を詳細に表現できます。林業に適さない急傾斜地や露岩地を把握できる他、地籍調査や森林境界明確化の基礎資料となります。史跡・遺跡などの学術調査や、観光にも有効に活用できます。

本ビジョンの位置づけ

上位計画

第2次南丹市総合振興計画
森・里・街・ひとがきらめくふるさと 南丹市
(改定) 南丹市人口ビジョン

南丹市 森林・林業・木材産業
振興ビジョン

～基本理念～
みんなで育てる南丹の持続可能な森林産業



新たな森林経営管理制度を着実に実践し
3つの目標像を実現します。

3つの目標像

- 目標1 南丹林業の成長産業化
- 目標2 持続可能な開発目標（SDGs）に貢献する森林・林業・木材産業の実現
- 目標3 みんなで取り組み、みんなで育てる南丹のきらめく「森」ときらめく「ひと」

<関連計画等>

- ☐ 南丹市森林整備計画
- ☐ 南丹市第2次環境基本計画
- ☐ 南丹市バイオマス産業都市構想 等

南丹市
森林・林業・木材産業振興ビジョン
2024年2月

発行：南丹市
編集：南丹市 農林商工部 農山村振興課
〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47
電話 0771-68-0012（直通）

森林・林業・木材産業
振興ビジョン

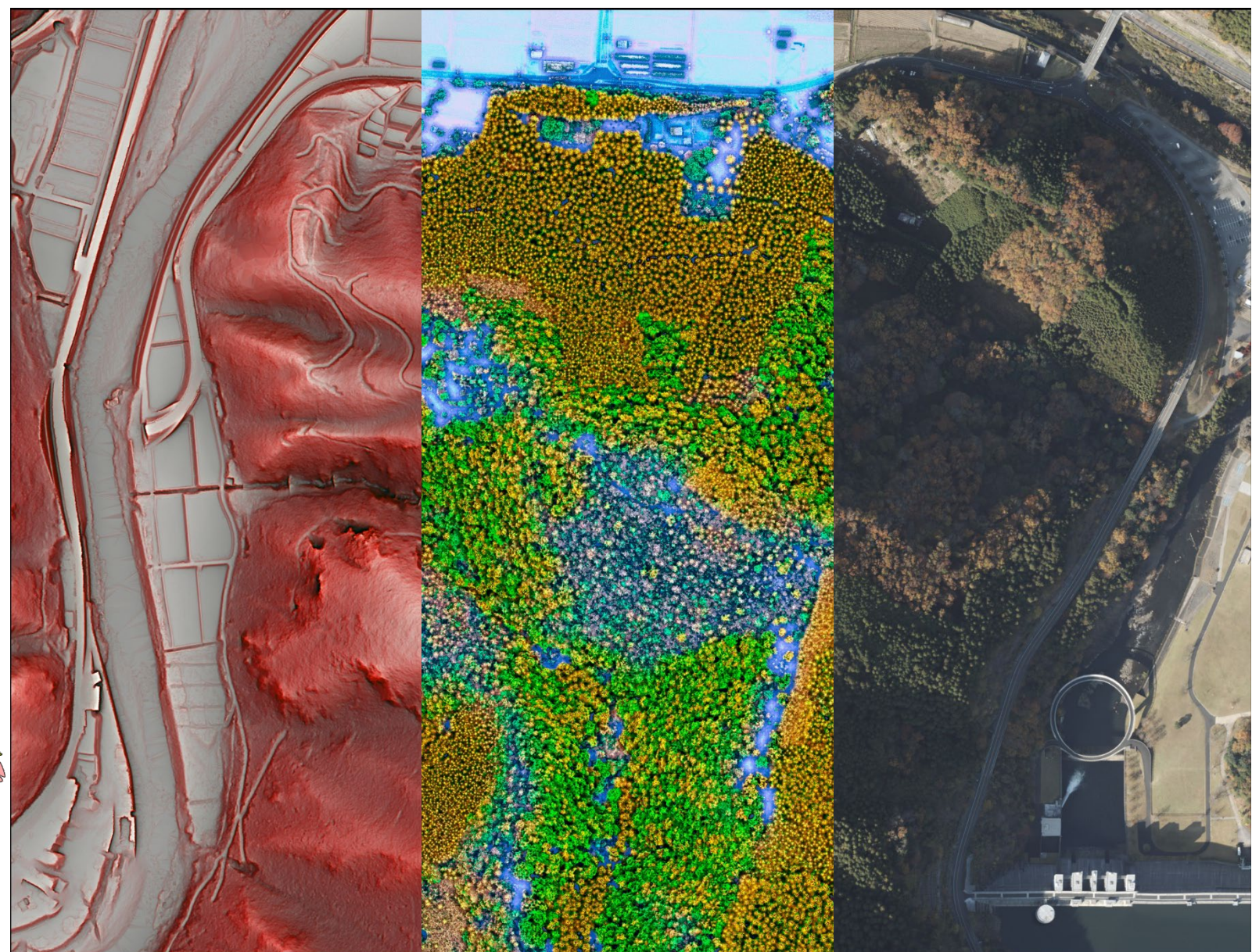
森・里・街・ひとがきらめくふるさと



南丹市

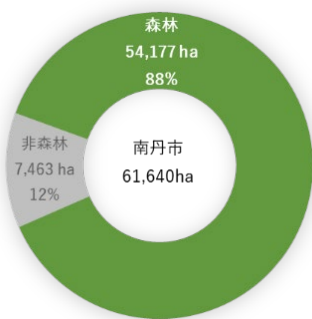
NANTAN CITY

令和6年(2024)－令和15年(2033)



南丹市の森林の現状

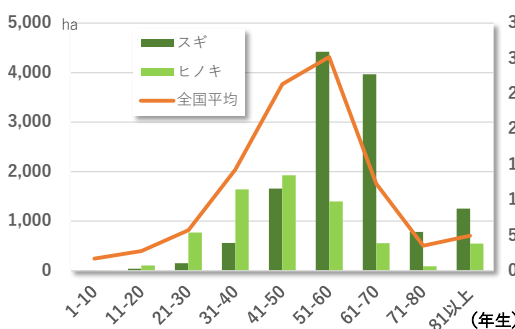
- 南丹市内の森林は54千ha、森林率は市域の88%に及びます。スギ・ヒノキの材積量は1千万m³あると推計されます。人工林の多くは51年生以上で、森林資源が充実しています。一方で、森林の若返りも必要です。
- 南丹市の森林は、小規模な森林所有者が多くなっています。森林所有者の高齢化や地域外への転居等により、境界が不明確な森林も少なくなく、適切な森林管理のためにも所有者・所有境界の明確化を推進する必要があります。



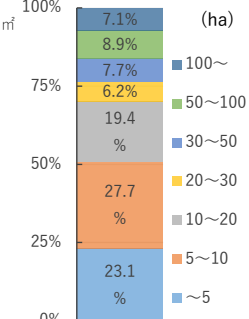
南丹市の面積

樹種	本数	材積 (m ³)
スギ	7,357,207	7,706,899
ヒノキ	7,929,951	3,002,689
計	15,287,158	10,709,588

航空レーザ測量で推定したスギ・ヒノキの資源量

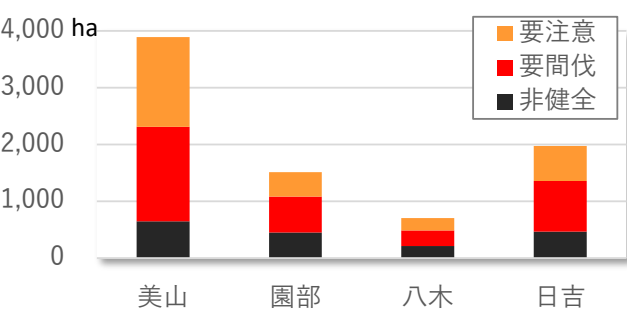


人工林の林齢別面積

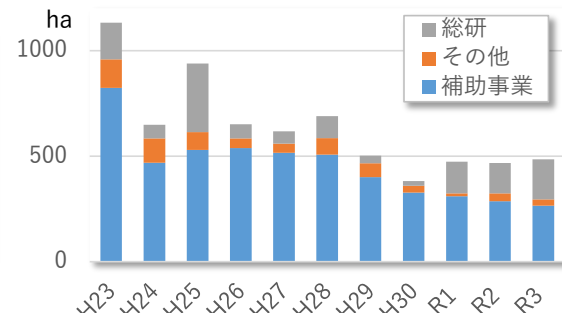


所有形態別保有状況の面積割合（私有林）

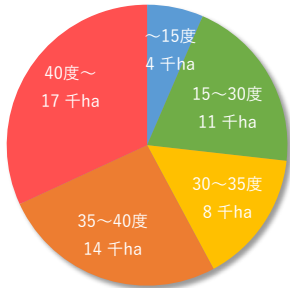
- 本計画では、航空レーザ測量による南丹市の詳細な森林情報をもとに、要間伐林分を抽出しました。加えて、目指すべき森林像の方向性を評価する森林ゾーニングを行いました。
- 南丹市内には間伐を要する人工林は8千haあります。うち1,800haの人工林は非健全な林と推定されました。一方で平成26年度以降、間伐実績は年間400ha前後と横ばい傾向であり、間伐の推進が求められています。
- 南丹市では、半分以上の森林が傾斜35度以上の急峻地形に分布しています。厳しい自然条件の中、経済的な観点から人工林として維持していくかを検討すべき森林もあります。



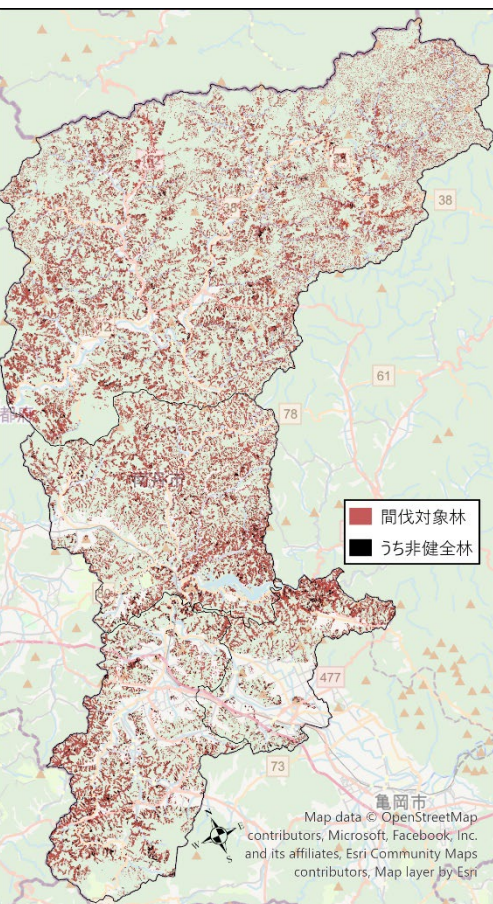
要間伐林の面積



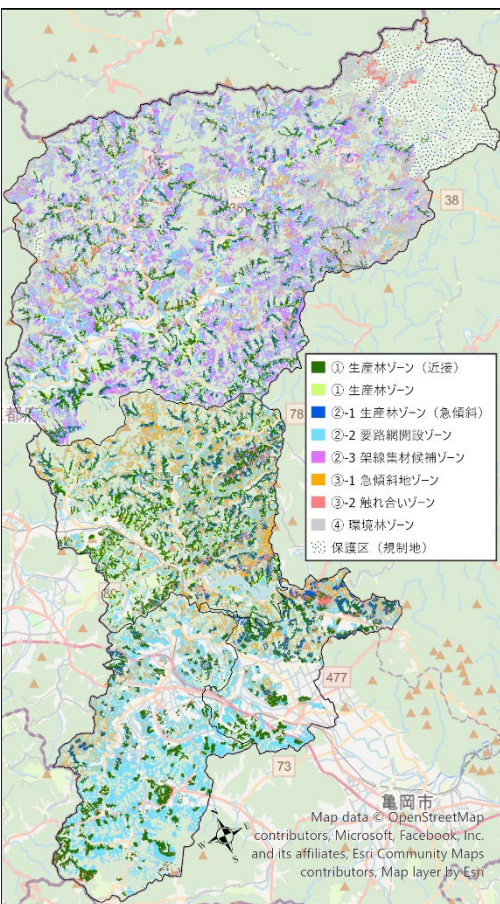
間伐実績の推移



傾斜区分ごとの面積割合

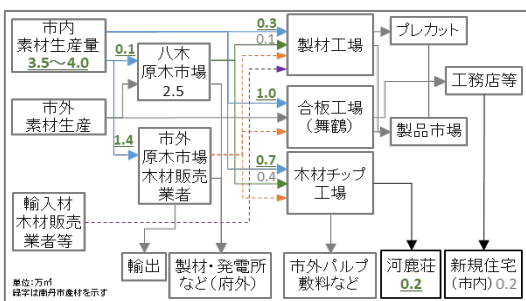


要間伐林分布図



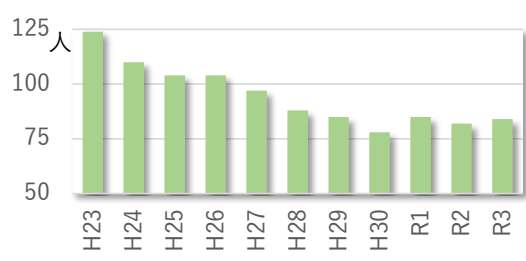
ゾーニング区分図

- 収穫期を迎え、木材の供給増加が見込まれます。地域内での需要創出が必要となっています。



南丹市における木材流通の流れ

- 林業労働者の減少や高齢化が進んでいます。森林整備を担う人材の確保と若返りが求められています。



林業労働者数の推移

取組の基本方針

みんなで取り組むICT技術等を活用した持続的で魅力のある南丹林業の実践



「ICT技術等」と、「組織や地域ごとの強み」を融合した次世代の高効率林業を協力して実践するとともに、地球温暖化や災害の防止など多面的機能を有する森林整備も後押しします。

南丹市産木材の利用促進と儲かる林業・木材産業の共創



持続的で成長する産業を実現するため、付加価値の高い南丹市産木材の生産に取り組むとともに、あらゆる場面で南丹市産材の利活用を進めることで、儲かる林業・木材産業を共創します。

南丹のきらめく森林を活かしつつ新しい事業の展開と関係人口の増加



南丹の立地条件を活かした、新しい「森林サービス産業」の創出に取り組むとともに、「南丹の歴史・自然・文化」を活用した都市との交流を促進し、森林の価値向上に取り組めます。

森づくりから家づくりまで南丹の森林を使いこなす「人財」の育成



将来にわたって南丹の森を守り、持続的な森林経営の担い手となる技術者とデザイナーの育成と定住促進に取り組めます。南丹の森・山・木の大切さを、世代を超えて伝えていきます。

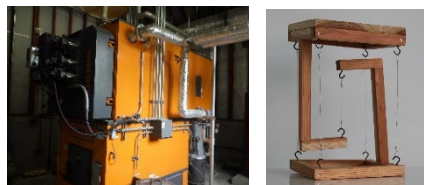


新技術研修（架線式グラップル） ※府外開催



八木原木市場

製材工場（園部町）



バイオマスボイラ（河鹿荘）

木工作品

具体的な取組内容と、10年後に向けた主な目標

1. 原木生産の拡大と安全な森づくりの推進

- ① ICTを活用したスマート林業の実践
- ② 森林境界明確化の推進
- ③ 持続可能な林業を見据えた森林整備の推進
- ④ 耐久性の高い路網整備と維持管理
- ⑤ 安全な林業の実現
- ⑥ 収穫の効率化による原木生産の拡大

<主な目標>
◎間伐面積 →642ha/年
◎1人あたりプランニング面積 →40~70ha/年
◎意向調査 →累計1,000ha実施
◎路網密度 →50~60m/ha以上
◎素材生産量 →40,000m³/年
◎再造林 →目標面積の設定

2. 各事業体と原木市場の相互協力の推進

- ① 次世代の林業のあり方を考える共同研究や勉強会の開催
- ② 施設の共同利用や、プランニング・施業の共同実施の促進

3. 主伐・再造林を見据えた研究

- ① 既存路網の活用や複層林施業など、南丹に適した再造林システムの研究

1. 南丹市産木材の利活用場面の創出

- ① 付加価値の高い原木生産の実践とPR
- ② 川上から川下への南丹市産木材のサプライチェーンの構築
- ③ 公共施設を中心とした「あらゆる場面の木質化」による南丹市産材の利用促進
- ④ 大径材・広葉樹材を活かした商品の開発

<主な目標>
◎サプライチェーン →準備組織立上げ
◎バイオマス熱利用施設 →具体的計画立案
◎薪・ペレットストーブ →累計250台導入

2. CLT・改質リグニン等、先端技術の協働研究および生産拠点の誘致

3. 薪やチップなど、南丹市産木材のエネルギー利用促進

- ① 温浴施設や公共施設へのバイオマス熱利用設備の導入促進
- ② 市民、事業体、公共施設における薪ストーブの普及促進

1. 森林を通じた滞在型の観光の展開

- ① 森林ツアーや森林スポーツ、アウトドア活動の普及
- ② 赤色立体地図を活用した「城山」「木の道」「フットパス」等のツアーの開発

2. 次世代を担う若者による、木材や森林を活かす新しい取組の実践

- ① 若者と異業種による柔軟な発想を活かした新しい取り組みの展開
- ② 学生とのコラボレーション（ワークショップ開催、公共木製品の制作など）

3. 多様な主体による森林整備の実践と地域循環共生圏の確立

- ① 地域通貨や「てんごり」による、経済と資源が循環する森林整備の実践
- ② 森林が有する多様な価値の創出



1. 人材育成・担い手確保のためのフォローアップの実践

- ① 林業・木材産業デザイナー・行政職員の育成
- ② 南丹市定住予定者に向けた支援

2. 教育機関との連携による新規就業者の確保

- ① インターンシップによる職場体験の推進
- ② 市内3大学演習林等や府民の森を活用した体験型プログラムによる普及啓発

3. 普及啓発事業の実施

- ① 講演会、シンポジウム、木育事業などによる普及啓発
- ② 南丹の森や木に触れ合うことのできる施設・ギャラリーなどの整備
- ③ 市広報等を活用した森の大切さや森林経営管理制度に関する情報発信

<主な目標>
◎デザイナー →3名
◎プランナー →16名
◎市の林務職員 →2名増